



中国日本商会

今どきコラムー116

中国雑談

中国は輸出入がともに好調

中国税関総局が7月13日に公表したデータによると、今年上半期の中国における貨物貿易の輸出入総額は18兆700億元で、前年同期比27.1%増だった。このうち、輸出は9兆8500億元で28.1%増、輸入は8兆2200億元で25.9%増だった。2019年の同期と比較して、輸出入、輸出、輸入のそれぞれの増加率は22.8%、23.8%、21.7%で、好調さが際立った。

中国商務部が前日に公表した1～5月のデータによると、中国の輸出入、輸出、輸入がいずれも過去10年間の同時期の中で最高の増加水準を記録し、2019年の同期と比較してそれぞれ21.6%、23.6%及び19.2%増加した。中国経済の成長に対する貨物貿易の貢献度は20%を超えており、世界貿易機関（WTO）の統計では、第1四半期に、中国の輸入が国際市場に占めるシェアは11.8%で、同時期における中国の輸入のシェアとしては最高水準だった。明らかに、中国経済の成長において貿易は重要な役割を果たしている。

中国の輸出が急増している主な理由は、新型コロナウイルスの大流行により多くの国々が封鎖を実施し、人々は在宅勤務をするしかなく、学生はオンライン授業を選択しているため、「巣ごもり経済」により家電や電子製品などの需要が急増しており、同時に他の製造業も先進国が新型コロナウイルスを抑制できていない中、中国が先に同ウイルスを封じ込めて、産業チェーンやサプライチェーンのスムーズな流れを保つことができているため、注文が大幅に増えており、供給不足を補い、世界の市場ニーズを満たしている。

中国の輸入における増加は、まずはニーズによるものであり、インフラ建設や輸出部門における原材料のニーズの大幅な増加を含み、数量においては、例えば上半期に輸入した天



然ガスは 5981 万 9000 トンで 23.8%増加した。トウモロコシは 1530 万 2000 トンの 318.5%増、小麦は 536 万 8000 トンの 60.1%増などを記録した。また、大口商品価格も持続的に上昇しており、1～5 月における 6%以上の輸入増加を牽引し、鉄鉱石、銅、鋼材、原油など 6 つの大口商品価格の上昇だけでも 5.7%の輸入全体における増加を牽引した。

貨物の大規模な輸出入以外に、ベース効果も顕著になっている。去年上半期のベースとなる要素が低かったことにより、1～5 月の輸出入の増加率は 6.6%だった。しかし、昨年の下半期、中国の海外貿易は昨年の上半期と比べて約 27%増加し、つまり昨下半期のベースはすでに上昇している。ベースの上昇により今年下半期の輸出入における前年比増加率は軟調になる可能性があるが、年間の輸出入という尺度では成長を維持できる望みがある。商務部のアンケート調査によると、**現在約 40%の海外貿易企業の新規輸出注文が前年より増加しており、従って外需には軟調傾向は見られていない。**

規模や増加の観点から見ると中国の貿易は十数年来で最も好調な時期にあると言えるが、しかしそれは新型コロナウイルスの大流行がもたらした需要と供給のミスマッチによるものであり、中国企業にとって障害となる要素やリスクはいずれも大きい。

まず、大口商品の価格上昇によって企業の生産コストが大幅に上がり、注文を受けた後のコストも上昇し続けているため、企業の利益を損なうだけでなく、赤字になることさえある。それに、**国内の障害となる要素も多い。**例えば、人民元レートの変動が大きくなると、一部の企業に「注文があっても受けることを躊躇し、輸出しても儲からない」という現象が生じている。もともと利益が薄い上に、さらにコストの上昇及び為替レートの上昇が加わると、ただでさえ薄い利益はすぐに飲み込まれてしまう。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com